



2021年5月14日

各 位

会 社 名 鹿 島 建 設 株 式 会 社
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 押 味 至 一
(コード番号 1812 東証・名証各第一部)
問 合 せ 先 執 行 役 員 経 営 企 画 部 長 高 林 宏 隆
(TEL. 03-5544-1111 (代表))

鹿島グループ中期経営計画（2021～2023）－未来につなぐ投資－ の策定について

当社は、本日開催された取締役会において、「鹿島グループ中期経営計画（2021～2023）」を決議しましたので、お知らせいたします。

I. ビジョン及びマテリアリティ

「鹿島グループ中期経営計画（2021～2023）」の策定にあたり、当社グループが長期的に目指す姿として新たに「ビジョン」を作成するとともに、社会とともに持続的に成長するための重要課題「マテリアリティ」の一部を見直しました。

I-1. ビジョン

当社グループを取り巻く経営環境は、近年、産業構造や人々の生活・行動、価値観の変容に加え、地球規模での気候変動と脱炭素化、デジタル化の進展などにより、急速に変化しています。昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界全体に著しい影響を及ぼし、社会・経済・技術の変化のスピードを加速させています。

こうした経営環境において、当社グループが持続的に成長するためには、多様な人材を呼び込み、外部リソースと連携しながら価値を共創することが重要と考えています。この認識のもと、今般、当社グループが目指す方向性を広くグループ内外と共有するため、ビジョンを作成しました。

人の思いと技術を受け継ぎ 想像と感動をかたちにするために 新しい発想で挑戦しつづける

大切にしたい価値観

■ 開放性

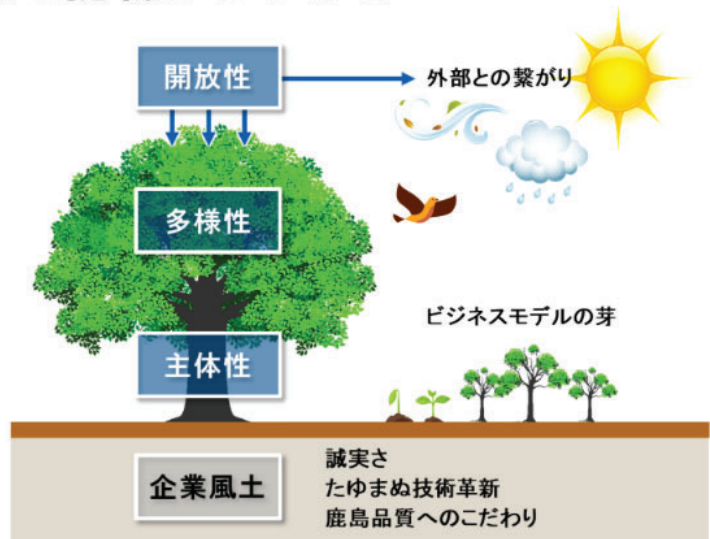
事業創出やR&Dに必要なリソースや刺激を外部に求め、変化への適応力がある

■ 多様性

多様な人材や働き方を重視し、尖った発想や異なる価値観を認め合う受容力がある

■ 主体性

イニシアチブを発揮し、新たな価値領域への仕掛けをまとめ上げる構想力がある



ビジョンには、過去に対する敬意と未来への挑戦という2つの意を込めています。ビジョンの実現に向け大切にしたい価値観は、当社グループを木に見立て、いかに大きく成長させるかという視点に基づいています。新たに作成したビジョンのもと、人と技術を重視するDNAをベースに、たゆまぬ変革と挑戦によって成長機会を捉え、社会からの要請に応えるとともに、長期的な企業価値向上を目指します。

I-2. マテリアリティ

直近1年間に起こった社会環境の大きな変化を踏まえ、一部を見直しました。マテリアリティに取り組むことを通じ、社会課題解決と企業価値向上の両立を目指します。

- ① 新たなニーズに応える機能的な都市・地域・産業基盤の構築
- ② 長く使い続けられる社会インフラの追求
- ③ 安全・安心を支える防災技術・サービスの提供
- ④ 脱炭素社会移行への積極的な貢献
- ⑤ たゆまぬ技術革新と鹿島品質へのこだわり
- ⑥ 人とパートナーシップを重視したものづくり
- ⑦ 企業倫理の実践

II. 「鹿島グループ中期経営計画（2021～2023）」－未来につなぐ投資－

ビジョンとマテリアリティを踏まえ、注力していく重要施策と経営目標を「鹿島グループ中期経営計画（2021～2023）」として策定しました。

厳しい競争環境においても、業績を維持向上させながら、中長期的な成長に向けた投資を実施し、当社グループの将来にわたる発展につなげる計画としています。

II-1. 2030年にありたい姿と主要施策

本計画では、中長期的目標である「2030年にありたい姿」を念頭に置き、「(1) 中核事業の一層の強化、(2) 新たな価値創出への挑戦、(3) 成長・変革に向けた経営基盤整備と ESG 推進」を3つの柱とし、これまでの施策を継続発展させるとともに、新たな施策や戦略的な投資を推進します。

(1) 中核事業の一層の強化

[2030年にありたい姿]

- ソフト・ハード、デジタル・リアルの技術の活用と、強固なバリューチェーンの構築により、持続的に成長している
- 「建設現場の工場化」や「サプライチェーン全体の見える化」により、合理的な生産体制を構築している

[主要施策]

- ① 成長領域を見据えた提案力・設計施工力・エンジニアリング力の強化
- ② 次世代建設生産システムの進化
- ③ バリューチェーンの拡充による顧客価値の最大化
- ④ 開発事業への積極的投資継続による収益拡大
- ⑤ グローバル・プラットフォームの構築・強化

(2) 新たな価値創出への挑戦

[2030年にありたい姿]

- 社会課題解決型ビジネスの有望分野で新たな収益源を獲得している
- オープンイノベーション推進体制が確立され、様々な新規ビジネスを創出している

[主要施策]

- ① 社会課題解決型ビジネスの主体的推進
- ② オープンイノベーションの推進による新ビジネスの探索・創出
- ③ 未来社会を構想する機能の強化

(3) 成長・変革に向けた経営基盤整備と ESG 推進

[2030年にありたい姿]

- 「鹿島環境ビジョン：トリプル Zero2050」に向けて「ターゲット 2030」を達成している
- 安心・安全・快適で、全ての建設技能者が魅力を感じる現場となっている
- 多様な人材が集い、自由闊達な組織となっている
- 世界最先端の知と結びついた R&D が事業をリードしている

[主要施策]

- ① 「トリプル Zero2050」の活動加速
- ② 次世代の担い手確保、サプライチェーンの維持・強化
- ③ 成長・変革を担う人づくり・仕組みづくり
- ④ R&D、DX の戦略的推進

II-2. 経営目標

	2021年度	2023年度	2024～2026年度	2030年度
連結売上高	2兆100億円	2兆2,500億円 程度	—	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	800億円	950億円 以上	安定的に 1,000億円 以上	1,300～ 1,500億円 以上
ROE	早期に10%を上回る水準に回復する			

II-3. 投資計画

本計画期間においては、「未来につなぐ投資」を重点項目と位置づけ、総額8,000億円の投資を予定します。生産性向上や担い手確保、強みを持つ国内外の開発事業への投資に加え、新たに戦略的投資枠を設定し、社会課題解決型ビジネスやグローバルなオープンイノベーションの推進など、将来の飛躍に向けた様々な取組みと新たな事業創出に挑戦してまいります。

投資計画（2021～2023年度の3年間合計）

	投資額
国内・海外開発事業 (売却による回収) (ネット投資額)	6,400億円 (3,600億円) (2,800億円)
R&D・デジタル投資	550億円
戦略的投資枠	600億円
その他設備投資	450億円
合計 (ネット投資額)	8,000億円 (4,400億円)

II-4. 財務施策・株主還元

財務施策

- ① 事業ポートフォリオ・資産構成の最適化
- ② 成長投資への充当原資として「政策保有株式」の更なる縮減（計画期間中に300億円以上売却）と有利子負債の活用
- ③ リスク耐性を備えた財務健全性の維持

株主還元

配当性向30%を目安とした配当に努めるとともに、業績、財務状況及び経営環境を勘案し、自己株式の取得など機動的な株主還元を行うことを基本方針とします。

II-5. カーボンニュートラル実現への挑戦

「鹿島環境ビジョン：トリプルZero2050」におけるCO₂排出量削減目標を見直し、2050年度に排出量実質ゼロ「カーボンニュートラル」とすることを目指します。また、2023年度中のSBT（Science Based Targets、温室効果ガス削減目標に関する国際認証）取得を目指します。

CO₂排出量削減目標（2013年度比原単位削減率）

	2021年度	2030年度	2050年度
自社排出CO ₂ (Scope1+2)	▲26%	[ターゲット2030] ▲50%	[トリプルZero2050] ▲100%

主な取組み

- ① 事業から排出されるCO₂削減
…生産性向上による省エネ、重機のハイブリッド化/電動化など
- ② カーボン・オフセット
…再生可能エネルギー電源の確保、カーボンクレジットの取得など
- ③ サプライチェーンCO₂削減
…低（脱）炭素材料の開発・使用、省エネ建物の設計・施工など

本中期経営計画の目標達成に向けてグループの総力を挙げて努力してまいりますので、今後とも一層のご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

鹿島グループ中期経営計画(2021～2023)の詳細は当社ウェブサイトに掲載しております。

URL	https://www.kajima.co.jp/ir/newplan/index-j.html
掲載日	2021年5月14日

以上